

## 令和5年度学位記授与式 式辞

皆様、卒業及び修了、大変おめでとうございます。

本日は、学部において二百三十名が卒業し、理工学の学士の学位記を受け取りました。大学院においては二十六名が修了し、理工学の修士及び博士の学位記を受領いたしました。誠におめでとうございます。本学の教職員を代表しまして、心からお祝い申し上げます。また、皆さんをこれまで励まし支えてくれたご家族の方々にも、お祝いの気持ちをお伝えしたいと思います。

本日は年度末の大変お忙しい中、千歳市長 横田 隆一様、千歳市議会議長 坂野 智様、衆議院議員 和田 義明様、本学同窓会会長 金野 徹様。その他、北海道議会及び千歳市議会の議員の皆様、千歳市役所、本学関連の企業、及び教育機関の方々にもご来賓としてお迎えすることができました。誠にあつく感謝申し上げます。

現在も、新型コロナウイルス感染症の影響が残っており、さらに、インフルエンザなど、他の感染症も、しばしば話題に上がっております。本日は、卒業生・修了生の皆さんにとって人生の大きな節目としてかけがえのない式典であり、またご家族の皆様もその晴れの日を楽しみにしておられたことと存じます。従来の形式で、この日を迎えられたことは、私ども、大変な喜びではありますが、卒業生・修了生の皆さんには、これからも健康と安全を保ち、新年度からの新たな環境で、ご活躍いただけることを、祈念しております。

例年、この卒業・修了の席でお話をさせていただいている建学の精神について、最初にお話をしたいと思います。平成10年、本学が開学した時に、初代学長である佐々木 敬介先生が謳われた、「人格陶冶」、「人知還流」という言葉についてです。

「人格陶冶」とは、ひとりひとりが、人間として正しい生き方を追求し、自らを常に発展させ、いかなる場合でも人間として正しい行動が取れるように自己研鑽することを意味します。正しい倫理観・道徳観で、向上心を高く持ち、前向きに生きて頂きたいということです。

「人知還流」とは、大学で学んだ皆さんが、そこで得られた知恵を、広く社会に役立てること。それにより、社会全体が発展し、より良い世界とすすむ。結果として、その社会の中で、新しい知恵や知識が育ち、それをまた皆さんが学ぶ。このような、知恵の循環を意味しています。

皆さんの専門は、応用化学・生物、電子光工学、情報システム工学の各分野となりますが、同時に、情報科学の基礎技術も学んだ、これからの時代に適した新しい

人材です。但し、「新しい」ということが、そのままイコールで、「優れている」、「素晴らしい」となるかどうかは、皆さん次第であり、各個人の力量、つまり人間力によります。

もう少し、具体的にお話をすると、情報科学のリテラシー科目や応用基礎科目として、数理統計学、ビッグデータ科学、人工知能応用つまりAI応用など、皆さんはすでに学んでいます。その中において、最近の話題で、「生成系AI」と呼ばれるシステムがあります。例えば、キーワードを提示すると、それに関するレポートを作成してくれる。扱いたい入力データと、結果をいくつか提示すると、その処理プログラムを作ってくれる。希望する背景と人物をいろいろ組み合わせて写真や映像を、実際に存在しているような品質で作りに上げるなど、様々なことが可能になっています。一見大変便利のように見えますが、そこから作り上げられたものが本当に有益なものなのかどうか、倫理的に適しているかなどは、考慮されていません。私は、AIの技術はどんどん活用すべきと考えています。但し、そこから得られたものが、どのような範囲で正しいのか、さらには、どの領域において、倫理的に活用すべきかを決めるのは、個人の力量に係っています。AIより得られたデータに支配されるのではなく、データをうまく活用し、大きなイノベーションを自らの力で生み出すような、素晴らしい研究者・技術者となるよう期待しています。

令和元年に、本学は公立化しました。学部卒業の皆さんは、公立化後の2期生となります。修士及び博士後期課程の皆さんは、私立と公立の2つの時代を経験しています。いずれの皆さんも、本学が大きく変革している流れの中で、大学生活を送りました。さらには、過去3年に及ぶ「新型コロナウイルス感染症」の世界的なパンデミックに大きく影響された生活ではなかったかと思います。大学では、新しい知識を獲得し、それを自分の力で活用するスキルを得るという大きな目的がありますが、一方で、同期や先輩・後輩などと知り合いになり、価値観を共有し、共に未来の社会について考え、時には、自分のキャリアや将来についても話し合うことのできる、貴重な機会でもあります。オンライン環境に無理やり押し込まれ、リモートワークが当たり前になってしまって、多くの友人を持つというわけにはゆかなかったかもしれませんが、今皆さんの中にある、人と人とのネットワークは、得難く、貴重なものとなるでしょう。また、これから進む社会において形成される、人と人とのネットワークも大変重要なものになります。そのネットワークを発展させて、よりグローバルな視点で行動し、多様性を積極的に受け入れる、そのような人間になってほしいと思います。

グローバルな視点とは、世界を見ると、様々な人間が存在し、その数だけ様々な意見が存在すること、それを理解することです。その中で、自分の主張や意見を正

しく説明するのは容易なことではありません。それを知った上で、わかりやすく、正確に自らの考えを積極的に述べる努力をしなければいけません。一方で、多様性を受け入れることとは、相手の立場に立って考え、相手の主張も理解するということです。両方を同時に実行するのは難しいときもあるかもしれませんが、できる範囲で行動するよう、心がけてほしいと願っております。

最後に、自分の力を信じ、自信をもって自らの世界を切り開いて行かれることを心から祈念し、私からの式辞に代えたいと思います。皆様の、今後の発展を期待しております。

本日は、誠におめでとうございます。

令和6年3月20日  
公立千歳科学技術大学長  
宮永喜一